令和３年度

学校関係者評価　報告書

学校法人　青池学園

富山リハビリテーション医療福祉大学校

富山リハビリテーション医療福祉大学校

学校関係者評価報告

学校法人青池学園 富山リハビリテーション医療福祉大学校は、教育理念、教育目的等をはじめとする学校教育及び学校運営について自己点検・自己評価を実施し、「令和３年度 学校自己点検・自己評価報告書」を取りまとめ、当校のホームページに公表いたしました。

また、学校関係者評価委員会におきまして、当校に関連する企業・業界の方々や教育関係者の皆様より当校の学校教育及び学校運営に対し、幅広くかつ的確なご意見、ご指導を賜りました。頂戴いたしましたご意見等につきましては「令和３年度 学校関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後は、委員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘を真摯に受け止め、大いなる気づきとし、社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質の保証及び向上を目指し、教職員一同邁進して参る所存でございます。

関係者の皆様には、今後とも尚一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和４年９月１日

学校法人 青池学園
富山リハビリテーション医療福祉大学校
校長　　神田　聡

令和３年度学校関係者評価委員会　開催概要

富山リハビリテーション医療福祉大学校

１　開催日時

令和４年８月２３日（火）16：00～17：30

２　開催場所

本校６階会議室

３　出席予定者（学校関係者評価委員会委員一覧表）

	学校関係者評価委員	所　　属	役職名
1	西能　　淳	（外部委員）　特定医療法人財団五省会	理事長
2	荒井　公浩	（外部委員）　学校法人荒井学園	理事長
3	川島　一郎	（外部委員）　株式会社斉藤経営	所長代理
4	青池　浩生	学校法人青池学園	理事長
5	神田　聡	富山リハビリテーション医療福祉大学校	校　長
6	中川　等史	富山リハビリテーション医療福祉大学校	教務課長
7	西潟　央	富山リハビリテーション医療福祉大学校	教務課長
8	玉井　由紀子	富山リハビリテーション医療福祉大学校	事務局長

４．学校関係者評価委員会次第

① 開会

② 理事長挨拶

③ 学校関係者評価委員紹介

④ 本校教職員紹介

⑤ 委員長選任

⑥ 自己点検・評価結果についての説明

⑦ 意見交換

⑧ 閉会

５．富山ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医療福祉大学校「令和３年度自己点検・自己評価報告書」に関する審議・評価

〈自己点検・自己評価について〉

評　価　項　目	評価・意見
基準１　教育理念・目的	・教育理念・目標は入学時に伝えている。また臨床実習前や面談時などでも繰り返し確認している。 ・理念の共有は重要と考えている。各教員・職員についてもいろいろな場で共有している。社員証にもカード（クレド）を入れ、常に意識して業務にあたるようにしている。
基準２　学校運営	・学校運営においては、S-wing・desknet’ｓを導入し、ペーパーレスやデジタル化を進めている。
基準３　教育活動	・教育活動については、昨年より授業評価アンケートを実施している。Google classroom を使用して実施しているが、始まったばかりであり、まだ課題も残されている。 ・国家試験の合格など個人の目標管理とともに学校・学科の目標を策定しその目標に向けて努力をしている。 ・FD（Faculty Development）活動については、職員に対する研修や授業評価を通して見直しを図り、年間にわたり計画的に実施していく。授業評価については始まったばかりだが、今後結果をもとに校長、課長らと振り返りを行い授業の質の向上を図りたい。
基準４　教育成果	・教育成果について、入学後必ず１対１にて面談を行い心配事・学業に対する不安を聴取し教員間で共有している。また継続的に聞き取りを行うことで、充実した学生生活が行えるように工夫している。 ・令和３年度は国家試験合格率 100%を達成できなかったので、今後は 100%を目指し、国家試験対策を強化していきたい。
基準５　学生支援	・新型コロナウイルス感染症の感染状況が続いており、積極的な活動が行えていない。今後、状況を見ながら、学校行事を含めた再検討が必要。 ・医療系の資格は高校卒業時のどれだけのモチベーション、憧れを持っているかが影響していると思われる。やりがいのある仕事であるが、大変な部分もあり一定数の退学は仕方がないことと考える。しかし、早いうちにその気持ち・適性などを見て対応してあげてほしい。進路変更の希望はあってもよいと思うがこれが多いと学校運営や全体の士気にも影響すると思うので、目標とする数値を定めて取り組んではどうか。 ・中途退学率が課題。少し改善してきてはいるが、今後も学生との面談の機会を増やすなど、改善を図っていきたい。
基準６　教育環境	・定期的に防災訓練を実施し、災害に備えている。 ・教員の確保や定職率については、毎年体制は整ってきているが、専任教員は不足している状況である。教員自身がやりがいをもって職務につけるよう

	に財務面など工夫が必要と感じている。理学の定員を増やしているが教員を確保することが難しく、在職教員にも紹介者を求めたりしている。また、医師の外部講師の確保にも難渋している。現在担当頂いている先生方に早いうちに次年度の継続を確認、お願いしている。
基準７　学生の受入れ募集	・HP/ブログ/インスタグラムを継続的に活用していきたい。広報担当と連携して手段を検討していきたい。 ・大学志向が強く、高校教員が大学を進める傾向。理学・作業の違いが分かりにくいことから、わかりやすい理学に流れやすい。高校のガイダンスなどに積極的に出かけ作業療法について啓発活動を行っている。SNS を用いた発信も積極的に行っている。 ・作業療法科の入学生が定員の約半数という状態が続いており、作業療法士の活躍の場を魅力的な場として学生に伝えていくことが求められる。コグニサイズや褥瘡対策などの面で専門性を発揮している。それぞれの分野でモデルとなる外部講師の先生方をお招きするなど工夫してほしい。
基準８　財務	・理学療法科の定員を増員したため、今年度は 64 名入学、作業療法科は定員を満たしておらず、広報に工夫が必要と考えている。入学者確保が財務基盤の安定化に繋がるため、教職員全員が意識して取り組みたい。
基準９　法令等の遵守	・法令等の遵守については、個人情報の管理を徹底。学生の SNS・LINE の使用についても継続的な指導が必要であり、また学生との連絡の取り方についても Google classroom の活用を図っている。
基準10　社会貢献・地域貢献	・社会貢献・地域貢献については、就労支援事業所からの訓練生の受け入れや、妊婦への腰痛予防指導教室などへ学生とともに参加している。

６．今後の取組み

各委員からの貴重なご意見、ご要望を真摯に受けとめるとともに、当面する課題を検討・改善し今後の教育活動に生かして参りたいと思います。特に専門職を目指すためのより実践的なカリキュラムの充実、本学園の教育方針である「人間力」、「実践力」、「社会力」の３つの力の育成に向け指導を徹底することなど、令和４年度中にさらに体制を強化し、学校運営に活用して、より良い教育の実践を通して学生の育成に努めます。

以上